

|     |           |     |             |            |    |    |     |   |
|-----|-----------|-----|-------------|------------|----|----|-----|---|
| 科目名 | スポーツ運動学特講 | 担当者 | モリナガ<br>森 長 | マサキ<br>正 樹 | 期間 | 通年 | 単位数 | 4 |
|-----|-----------|-----|-------------|------------|----|----|-----|---|

【科目概要】

|              |  |      |   |
|--------------|--|------|---|
| 目 的          | <p>スポーツ運動学では、現象学的立場から人間の運動の構造と発生について学ぶことを目的とする。具体的には、運動モルフォロジーの方法を基に進められてきたスポーツ運動学研究のこれまでの文献やその研究方法などを精査し、その中で取り扱われる運動質や、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法といったいくつかのキーワードを基に、自身が対象とするスポーツにおけるスポーツ運動学的観点からの包括的な理解を深める。</p>   |      |   |
| 到達目標         | <p>【一般目標 (GIO)】<br/>スポーツ運動学における運動質、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法がどのような事を意味し、どのように研究していくべきかについての方法論を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】<br/>①スポーツ運動学における運動モルフォロジーを中心とした主要な研究課題が、どのような課題であるかを整理し説明することができる (知識・解釈)<br/>②これまでの知見を基に、自身の対象とするスポーツでの課題についてその課題を発見し、解決するためのスポーツ運動学的観点からの方法論を示すことができる (知識・問題解決)。</p>   |      |   |
| 学修方略<br>(方法) | <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】<br/>manaba folio の機能を用いて、課題を進めていくうえで疑問点、不明な点は掲示板で情報を共有し、受講者同士で議論する。また、理解の難しい用語などについては担当教員に直接確認を行う</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】<br/>(自習) 【SBO①】基本教材を熟読し課題に取り組むにあたり、必要な用語や表現の理解を深める【25時間/レポート1本】。(自主研究) 【SBO①&amp;②】また、レポート課題で自身が対象とするスポーツにおける技術に関する課題の分析を行い、【10時間/レポート1本】レポートの素案を作成する (レポート作成) 【SBO①&amp;②】【5時間/レポート1本】。(ディベート) 【SBO①&amp;②】整理した内容をmanaba folio の掲示板機能を用いて教員および受講生と作成した素案を基にディスカッションを行い最終的なレポートの作成を行う【10時間/レポート1本】</p> |      |   |
| スケジュール       | <p>前期：教材1のレポート課題(1)については7月末日、課題(2)は8月末日を目処に提出すること。<br/>取り上げる題材について、掲示板を用いたディスカッション及び直接面接を行い相談することが望ましい。いずれの課題も学事歴に定められた日までにまとめて提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)については11月下旬、課題(2)は12月下旬を目処に提出すること。<br/>取り上げる題材について、掲示板を用いたディスカッション及び直接面接を行い相談することが望ましい。いずれの課題も学事歴に定められた日までにまとめて提出する。</p>  |      |   |
| 成績評価         | 種 別  | 割合   | 評価基準  |
|              | レポート   | 80 % | 内容については、課題に対する妥当性、これまでの文献精査からの知見の反映、研究対象とするスポーツに関する自身の考察がふくまれるか否か、その他レポートの構成を含めて評価する。 |
|              | 観察記録   | 20 % | ポータルシステムを用いたレポート作成に関する積極的な態度などを評価する。  |
| 履修者への要望      | <p>①レポートを作成する前に、レポートのテーマや構成について、数回直接面接を行い相談することが望ましいです。叶わない場合はメール等で連絡相談して下さい。</p> <p>②レポートのテーマとして設定するスポーツ種目は自由に選択して問題ありませんが対象とするスポーツに一定程度の理解がある種目を選択してください。</p> <p>③レポートの構成については、参考文献の記載の仕方も含め別途指示しますのでその内容に従い記述してください。</p> <p>④スポーツ運動学に関する最新の知見を概観し、レポート作成に必要な文献は積極的に確認してください。</p> <p>⑤その他質問等がある場合はメール等で連絡してください。また、面接の必要がある場合は、必ず事前にメール等で相談してください。</p>   |      |   |

【レポート課題】

| 基本教材 1   |  |
|----------|--|
| 教材の概要    | 著者名： 金子明友・朝岡正雄編著<br>教材名： 「運動学講義」<br>ISBN:978-4-469-26177-6 (大修館書店, 1990) 2,000 円+税   |
|          | スポーツ運動学における学問としての成立過程から専門領域内容を簡潔に網羅した入門的なテキスト。   |
| 参考図書     | 朝岡正雄 著「スポーツ運動学序説」(不昧堂出版, 1999 年) 6,300 円+税   |
| 履修上のポイント | スポーツ運動学は現実の運動指導に基礎を提供する実践的運動理論であることから、自身の運動を覚える体験や実践する体験、教える経験をもとにそれらの内容を踏まえながら学術的な知識として体系化して学修および考察を行っていく。まずは教材内容を熟読し、自身の経験と照らし合わせながら学修していくこと。                              |
| レポート課題 1 | 教材の第 1 部 (運動学講義) の Lec.1 から Lec.7 まで読み、自身が興味関心を持った Lec を 3 つ取り上げて、その Lec 内容を要約しなさい。<br><b>留意点:</b> 各 Lec (章) は 1 つにつき約 1000 文字程度で要約すること。テキストの丸写しではなく、自身の意見やコメントも含めて要約すること。   |
| レポート課題 2 | 教材の第 1 部 (運動学講義) の Lec.8 から Lec.15 まで読み、自身が興味関心を持った Lec を 3 つ取り上げて、その Lec 内容を要約しなさい。<br><b>留意点:</b> 各 Lec (章) は 1 つにつき約 1000 文字程度で要約すること。テキストの丸写しではなく、自身の経験や体験談なども含めて要約すること。 |

| 基本教材 2   |  |
|----------|--|
| 教材の概要    | 著者名： 日本スポーツ運動学会編<br>教材名： 「コツとカンの運動学 わざを身につけるための実践」<br>ISBN : 978-4-469-26891-1 (大修館書店, 2020 年) 1,800 円+税                                 |
|          | スポーツ運動学の理論領域を実践的な視点から解説したテキスト  |
| 参考図書     | ウルリヒ・ゲーナー著 佐野淳 朝岡正雄 監訳 「スポーツ運動学入門—スポーツの正しい動きとは何か—」(不昧堂出版, 2003) 3000 円+税   |
| 履修上のポイント | 理論的に学修されたスポーツ運動学の知識を実践的な現場で活用するための方法論やその方法論の知識的体系を理解し、考察していく。加えて、自身の経験や体験を得られた知識や言葉で表現して考察を深めていく。  |
| レポート課題 1 | 教材の第 II 章を読み、コツやカンの世界がどのような世界観で、またどのような過程で成り上がっているのか要約を行い記述すること。<br><b>留意点:</b> 要約は約 1200 文字程度で行い、その後自身の経験や体験などを踏まえてコメントを 300 文字程度つけること。 |
| レポート課題 2 | 教材の第 III 章を読み、「わざ」といわれるものがどのように発生して形成され、伝わっていくのか要約を行い記述すること。<br><b>留意点:</b> 要約は約 1200 文字程度で行い、その後自身の経験や体験などを踏まえてコメントを 300 文字程度つけること。     |

### 基本教材 1

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 第 1 回  | 課題の理解のためのシラバスの確認および教材の学修         |
| 第 2 回  | 基本教材 1 の Lec. 1 の内容に関する学修        |
| 第 3 回  | 基本教材 1 の Lec. 2・3 の内容に関する学修      |
| 第 4 回  | 基本教材 1 の Lec. 4・5・6・7 の内容に関する学修  |
| 第 5 回  | 基本教材 1 の Lec. 8・9 の内容に関する学修      |
| 第 6 回  | 基本教材 1 の Lec. 10・11・12 の内容に関する学修 |
| 第 7 回  | 基本教材 1 の Lec. 13 の内容に関する学修       |
| 第 8 回  | 基本教材 1 の Lec. 14・15 の内容に関する学修    |
| 第 9 回  | レポート課題 1：初稿の作成                   |
| 第 10 回 | レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成          |
| 第 11 回 | レポート課題 1：最終稿の作成                  |
| 第 12 回 | レポート課題 2：初稿の作成                   |
| 第 13 回 | レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成          |
| 第 14 回 | レポート課題 2：最終稿の作成                  |
| 第 15 回 | レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証 |

### 基本教材 2

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 第 1 回  | 課題の理解のためのシラバスの確認および教材の学修         |
| 第 2 回  | 課題となる自身の運動技術における重要な局面の整理と検討      |
| 第 3 回  | 基本教材 2 から「コツとカンの世界」について学修        |
| 第 4 回  | 自身の経験や体験を踏まえたコツとカンの世界について考察      |
| 第 5 回  | 第 3 回、4 回の内容を理論的に体系化して学修         |
| 第 6 回  | 基本教材 2 から「わざの発生」について学修           |
| 第 7 回  | 自身の経験や体験を踏まえたわざの発生について考察         |
| 第 8 回  | 第 6 回、7 回の内容を理論的に体系化して学修         |
| 第 9 回  | レポート課題 1：初稿の作成                   |
| 第 10 回 | レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成          |
| 第 11 回 | レポート課題 1：最終稿の作成                  |
| 第 12 回 | レポート課題 2：初稿の作成                   |
| 第 13 回 | レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成          |
| 第 14 回 | レポート課題 2：最終稿の作成                  |
| 第 15 回 | レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証 |